



こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立 1964年3月2日 例会日 毎金曜日12時30分 例会場 オークラ千葉ホテル
会長 出井 清 幹事 伊藤 和夫 雑誌会報委員長 小林 透
事務局 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎ 043-245-3204)

2011年10月第4週号

第2333回



平成23年10月28日(金) 点鐘12:30(晴れ)

- ◆ロータリーソング 『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

◆本日のゲストスピーカー／
伊藤国際経営コンサルタント 伊藤 博様

■ 会長挨拶及び報告 出井 清会長

日中はポカポカ陽気ですが、このところ朝晩めっきり冷え込んできました。風邪をひいていらっしゃる方も多いようですが、皆さんお体にはお気を付け下さい。

10月25日(火)、サンケイ新聞社主催で、昼夜を問わず懸命に働く警察官の功績を称える「第42回県民の警察官表彰式」が京成ホテル・ミラマーレで開催され、出席して参りました。千葉県の各企業や団体が毎年協賛していますが、千葉市内11クラブロータリークラブもその中に入っております。3名の受賞者の中で、東日本大震災時に旭市で起きた津波の際に人命救助で活躍されたということで巡查長が表彰されておられました。

同日の夜、一般の方にロータリー活動やクラブへの理解を深めて頂くことを目的とした「千葉西RC・オープン例会」に野本会員と出席して参りました。ゲストスピーカーに大相撲第64回横綱(現プロレスラー)の曙太郎氏を迎え、近隣ロータリアンと入会候補者多数、約110名参加の千葉西RCの勢いを感じた夜例会でした。(写真提供 海寶勸一様)



■ 委員会報告

◇社会奉仕委員会より (北原俊彦委員長)

ひかり学園より、11/23(水)開催の“いきいきフェスタTAKO”において行われるバザーへ献品のお願いが届いております。衣料品・贈答品・不用品等利用することが出来れば新品・中古品は問いません。ご協力をお願い致します。18日(金)、米・野菜パック販売日にお持ちいただければと思います。

■ 幹事報告

伊藤 和夫幹事

次週4日の例会は、11月6日(日)、上総アカデミアホールで開催の地区大会へ変更します。

地区大会参加者でバスを利用される方は、千葉駅NTT前 07:45 蘇我駅千葉BK脇 08:00

■ ニコニコボックス報告

◇出井 清会長・伊藤 和夫幹事

本日のゲストスピーカー、伊藤国際経営コンサルタント・伊藤博様、ようこそお出で下さいました。本日の卓話を楽しみにしております。宜しく願い致します。

◇小野 成子会員

伊藤博先生、お忙しいところお出で頂き有難うございます。卓話、どうぞ宜しく願い致します。

又、別件ですが、「千葉おかみさん会」で、11月5日(土)、そごう入口にて千葉酒造まつりを行います。無料試飲をメインに致しますので、お時間のある方はどうぞいらして下さい!

本日のニコニコボックス	2,000 円	累計	317,976 円
金の箱	267 円	累計	6,871 円

第2334回例会

《地区大会》

日時⇒ 平成23年11月6日(日) 点鐘09:30

会場⇒ 上総アカデミアホール

第2335回例会

日時⇒ 平成23年11月11日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『筆跡から読む人物分析』

卓話者⇒ 書家 田坂 州代様



■ 出席報告 (会員数38名)

出席者数28	欠席者数10	ビジター 1	修正出席率 100%
--------	--------	--------	------------

千葉市内例会変更のご案内 [メンバーシップをご利用下さい](#)

千葉RC	月	11/7	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	11/15	センテイタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	11/29	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマレ
千葉北RC	水	11/9・30	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	11/10	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	—	京成ホテルミラマレ

… 本日の卓話 …

演 題…『究極の大型クリーンエネルギー』
卓話者… 伊藤国際経営コンサルタント
伊藤 博様



ロータリーと私の繋がり是非常に古くて、昭和 36～37 年の学生の時にロータリー国際大会が開かれ、その時世界中からガバナーが集まった。その時私は通訳の手伝いをした。そんなことからロータリーには親しみ

をもっている。

さて、計画停電という思いがけないことが起こっているが、周知の通り福島原発事故が原因で天災が呼んだ事故である。いつもお世話になっている小野社長とかつて見学したが、質疑応答のときに安全に問題があるのではないかと指摘したが、まさにその通りになっている。

しかし、日本の電力はご案内の通り全体の約3分の1を原子力発電で賄っている。更にベースになっているのが従来型の水力発電、これは安定的。それから真夏のピーク時を補うものとして非常に役に立つのが火力発電。これは石油とか天然ガスがある。これは運転が自由に出来るので調整が可能。これで日本の全電力を平均的に担ってきた。3分の1が原子力であったが、あのような事になってしまって、さてどうするというのがこれからの話。

世の中では再生可能エネルギーとして、地上の風力発電、太陽光発電、地熱発電等諸々の再生可能エネルギーの研究が進んでいる。それと従来の大電力とがうまくスマートフリート(迅速に対応)して全体を補おうという計画で進んでいる。自然再生エネルギーに関してはどんどん伸ばしていくことが命題であり、これには反対ではないが、残念ながら今の技術の延長線上ではその希望が少ないので、量的に確保するのが至難の業である。

例えば風力発電にしてみると、3枚羽が主力である。今、一番世界的に普及しているのは3枚羽の大きなもので、これには 2 つの問題点がある。ひとつ目は風を切るときに低周波を出す。これは如何ともし難いことで、人口密集地では

どうしても建てられない。低周波を消すことが出来ない。これは一つの人災になるので、遠隔地に建てることになる。もう一つの問題は風車の稼働率は 18 パーセント。一番問題なのは雷。ゴルフ場についてフラッグ持っていて雷が来たら捨てて逃げるでしょう？あの羽はそういう材質で出来ている。雷は高いところに落ちる。ピーク時は時速300キロになる。雷が落ちると全て破壊されるから、そう簡単には修理できない。色々な問題があってそれらは表に出ていない。あんなに良いものではあるが欠点がある。

次に、地上太陽電池(ソーラーパネル)。孫社長は休耕地全部に敷き詰めれば何億キロワットが可能だという。日本の食糧自給率を考えたなら今のままにしておくわけにはいかないと、そんなことしたら、食料を今以上に輸入しなければならない。自分の食べるものは自分でつくらなければならない。各国はそれに命を懸けている。日本だけ『金で買えばいいじゃないか』と言っている。自給率は大変な問題。これもこのままでは本命にはならない。

地熱もある。波もある。これもいろんな問題がある。そうすると何が本命か。結論から言うと宇宙に発電所を作ろうということ。地上 200 キロに世界で作った衛星(宇宙ステーション)が浮いている。私どもが考えているのは地上から3万6千キロに発電衛星を上げよう！という計画。原理は簡単。今使っていると同様の太陽電池を敷き詰めようという計画。この計画は 1968 年にアメリカのグレーザー博士という方がいて、21 世紀の全アメリカのエネルギーが年間 8000 億キロワットになる。これをそのまま補ったらとてもじゃない。アメリカは TVA という大きな発電所もあるし石油もあるが十分ではない。60 機その衛星を上げる事によってアメリカ全土のエネルギーを 100 パーセント補おうという大構想で大統領がサインをして走りかけたが、色々な事情で膨大な予算がかかることが分かり、NASA も一時は真剣に取り組んだが中断してしまった。日本はその構想をいち早くキャッチし、最初に取り上げたのが、日本の大学、研究所(今の JAXA)、東京大学、京都大学、全国の大学、私立では慶応大学、一緒になり研究コースコンソシアム(団体)をつくり始めた。どうやってロケットを上げるが、どうやってエネルギーを地上に下ろすか、色々研究した。結論からいうと、マイクロウェーブで地上に送る。天空でやっているのだから、太陽が出ている限り、昼夜を問わず 24 時間無限に発電できる。あとはそれを地上に送ってやる。その送電実験、受電設備、構想はずいぶん前に決まり、実験も始めて、成功している。地上で受けるレクテダという特殊アンテナ、これで地上 3 万 6 千キロから受けて、それを送電網で流すという一つのモデル。これを日本でずっと研究してきた。福島原発事故以来、大型電力は他に手が無い。結局これだろう。当時私どもが研究していた時は、2040 年を目処にやった。何故 2040 年が目処かというと今やっている原子力の力はやはり大事(必要)なので、その間は補ってもらわなければならない。原子力は放射性物質・廃棄物が大変に出る、その処理方法たるや大変なこと。当時日本の政府は、原子力は安全である。こんなに良い物はないということで、国をあげて原子力に力を入れ、世界各国に売り込もうとした。世界各国ではまだ 500 機の潜在市場がある。一機大体 3000 億から 5000 億。その産業(領域)では日本が頂点に立っていたので力を入れてきた。そのときな

んと言ったかという、『原子力は安全です。』という神話を作った。

話は戻りますが、コスト的にも太刀打ちできない程高い。そうなると残るは宇宙発電。では、宇宙発電は理想的かというと、大体技術は確立して40年を目処にしていたが、この事故で早めてくれという政府の要請があった。私どもや政府も関与して官学民の合同の委員会が発足した。5年程早められた。アメリカでは宇宙関係の開発は年間4兆円以上使っている、日本はその10分の1。アメリカは更に軍がプラスになっている。宇宙開発を資源争奪戦に巻き込んでほならないということから宇宙開発が始まった。

音楽の大好きな私は趣味として音楽を聴いている。それは3万6千キロの彼方から来ている。日本の音楽配信会社が飛ばした高性能の電波を通信専門衛星を通して、パラボラアンテナで受けて聴く。これはピンポイントでくるが、発電衛星は面で送られてくる。これをレクテナという特殊なアンテナで受ける。発電衛星から来るマイクロウェーブは非常に微弱ですがそれをループで受けて一箇所に集めると、膨大な電力になる。今現在、電力会社は一箇所で受けられる受電設備を持っていない。それくらい凄いのが来る。24時間タダです。2004年に私は、『我が国の電力事情と未来展望、夢の大型クリーンエネルギー太陽光宇宙開発への誘い』特集を書いた。これを書いた時にはまだ皆信じていなかった。私は、その人達に「手塚治虫の漫画でお茶の水博士がロケットに乗って宇宙へ行ったのを見て、誰が本当に宇宙に行けると思いましたか？それから何十年かして宇宙に行ける様になったよね。月に行ける様になった。思ったことは必ずできる。時間があれば必ず出来ると言った。

当時内閣では(3~4年前までは)、これを統括するものが無かった。最大の問題点は日本の研究開発費は膨大なもので、不景気になってもこの開発費は落ちていない。これは、大したものだ。ただこの研究開発費を文部科学省が握っている。大学とか研究機関は申請すれば直ぐ落ちる、ところがこのお金は基礎研究に使われる使命がある。我々の太陽宇宙発電はもう基礎研究の域を十分脱して。産業開発研究レベルに来ている。研究開発費は経産省になる。経産省のこの手の予算はまったく無い。つまり国の考え方がまともでなかった。そこで私は永田町に行って当時の大臣に言った。そうしたら翌年に宇宙開発法が出来て、今は本格的に進めているけれども、依然として研究開発費はアメリカの10分の1。だから民間に頼るところが大きい。民間は三菱とか大手が入っているからまあまあですが、もっとも重点的にやらなくては行けない。日本国が潰れてしまってもいいのかと申し上げたい。

これが問題になったのは、地球の温暖化の問題が最初。炭酸ガスが増えると温暖化効果があって平均すると地球は2℃位上がる。2℃上がると南極の氷が溶けて、東京の江東区辺りは水没するよと言われている。太平洋のツバルは水に浸かっている。タイの洪水も見ようによっては異常気象から起こっていると言えないこともない。日本でも、世界でも異常なことが起こっているが、炭酸ガスのせいだというのが通説だ。絶対これだという確証は誰もしていないが。

また、地球は今冷寒期に入るといふ学説もある。こんなのは一時的なものだといふ意見もあるが、世界的には炭酸ガ

スこそ悪者であるという事になっている。炭酸ガスを減らすにはどうしたらいいか？やはり、化石燃料を燃やすというのが一番の原因になる。日本の炭酸ガス排出量の約3割近くは火力発電から来ている。自動車も凄い。今、中国の自動車が普及しているので排気ガスが凄い。省エネで排出量がどんどん少なくなっている。ハイブリットも出ているが、まだ古いのも走っている。でも、やはり凄いのは火力。石油を燃やしちゃう駄目なんです。天然ガスに代わりつつあるが、大事な化石燃料を燃やしているだけでいいのか？もっと有効に使えるのではないかとエネルギーをもっと別なもので取っただけでいいのではないかと。

ということで出たのが太陽光発電という訳なのです。何故これが上がったかという、地球温暖化と人類の絶滅を防止する為の役割もある。もうひとつ、日本は資源の無い国で石油も無い。しいて言えば天然ガス。だからといって全日本を補うほどではない。だから、そうでない代替エネルギーに変えざるを得ないということ。

さて、これはどのくらいの経済効果があるのか？SPS(スペースパワーサテライト)。温暖化防止の効果が大変大きい。ただ、これを建設する時に現在の地球上のエネルギーを使わざるを得ない。このエネルギーを造っているのは電力会社なので、電力会社とこの計画は決して敵対しない。これを造るには、今の日本の全電力使用料に匹敵する電力を購入しなければならないから。ですから電力会社が潤う。そしてロケットで打ち上げて成功した暁には、上からただのエネルギーがさんさんと降ってきます。電力会社は配電網を使って配線事業で十分に儲かる。電力会社が一つ原発を造るのに5千億かかる。5千億を幾つも自分で造らなくてもいい。造るときに儲けさせてもらってその後、利益を享受するのに何故電力会社が反対しようか？今電力会社の人に聞くと、そうだなという。では何故あの時に原子力を押したのだと聞くと、海部総理の時のサミットで、これからのエネルギーを先を見越してやるんだと、一つは核融合でもう一つは太陽発電衛星を上げ、この二つを世界に宣言した。その後結果を見ると核融合に莫大な資本がまわってしまって、太陽電池は微々たるものになった。これは産業界の力関係です。産業界が核融合をやりたいということで、政治家を動かした。ところが、核融合は膨大な金を使ってまだ何も実っていない。そこで太陽発電。いろんな意味でメリットがある。

最後に、軍事的に1986年、中国の旧軍が新しいモデルに生まれ変わるあの時期に宇宙から世界を征服するというあの国は構想をつくった。宇宙軍をつくって全地球を観測して全世界を制覇するという構想が86年にあった。今その通りに動いている。中国という国はすごい。

日本はどうかというと、長期構想が無くその日暮らし。経済効果は付加価値で当時GDP500兆円に対して123兆円の経済効果。これは25パーセントもの付加価値を生む。当時の自動車産業の24倍もの有効需要を創設することができる。これをしない手はなかろうと分かっているが、当時の原子力に5兆円もある中からふんだんに使ってばら蒔かれた浄財でマスコミも世論も全部原子力で来たツケが今回ってきている。そして今まさに方向転換をする時期が来た。本年をもって宇宙発電衛生元年であると位置づけ
ております。(文責 向後 保雄会員)

